

席立つ首脳引き留める

「ようやく、合意できた。13日午前9時(日本時間同日午後4時)すぎ、疲れた養情で記者会見場に現れたE.U首脳会議のトゥスク常任議長(大統領に相当)は一瞬、笑みをみせた。11日からの財務相会合と合わせると約17時間。E.U首脳会議は、12日

フランス政権が今年1月に発足して以来、E.U側がため込んだ「信頼の欠如」(メルケル独首相)だった。不信感が頂点に達したのは、今月1日に第2次支援プログラムが失効する直前に突如、改革案の賛否を問う国民投票を実施するとい

つて決断した。その結果、E.U側は「オヒ(ト)」の民意を後々盾に、E.U側に譲歩を迫った。そして、7日のE.U首脳会議で、新たな改革案を提出するよう最後通告を突きつけられると、今度は百八十度方針を転換。国民投票で拒んだE.U案とほぼ

ギリシャを経済的破滅のふちから救うのか、見放すのか。E.UのE.U首脳会議は13日、17時間に及ぶ徹夜の協議を経て、合意にこぎつけた。ギリシャはE.U離脱を何とか免れたが、国会での財政改革案の法制化をはじめ、支援再開までの前途は多難だ。

▶1面参照

信頼修復へ徹夜17時間

E.U側支援再開 条件合意



イツをはじめ各国をおせんどさせた。途切れた「信頼の糸」をいかに修復するか。トウスク氏は全体会合の合間を縫

独仏財政観の違

ギリシャ側とひざ詰めの交渉に臨み、妥協に奔走した独仏首脳だが、その舞台裏では、欧州統合を進める車の両輪である両国の間に不協和音が生じていた。

「何を犠牲にしても合意しなければならぬわけではない」。メルケル氏は12日、首脳会議前にそう語り、合意を期待するギリシャを突き放した。だが、対照的にオランド氏は「合意のためにあらゆる努力をす

い、E.U圏を引っ張るドイツのメルケル氏とフランスのオランド大統領を交えた三者でチブラス首相との妥協点を探った。

英紙フィナンシャル・タイムズによると、交渉開始から約14時間がすぎた13日早朝、メルケル、チブラス両氏が合意をあきらめ尻を立とうとしたのを、トウスク氏は全体会合の合間を縫

した。「E.Uからの一時的離脱はありえない。離脱か、離脱しないかだ」

批判の矛先はドイツに向けられていた。E.U関係者によると、首脳会議に先立つ財務相会合では、シヨイブシ独財務相が「合意達成が無理なら、5年間の期限付きでギリシャにE.U離脱を促すべきだ」と提案。サパン仏財務相と激論となったという。

ナチスドイツ台頭の土壌を主眼にインフンの記憶の